

国語 第1学年 なんていうのかな

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある4月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「同じ頼み事でも相手に伝わる言い方はどれか」を問い、挨拶や頼み事の場面を選び、相手の返事を受けて言葉を交わす。場面と言い方のカードの初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。
〔第1学年及び第2学年〕A 話すこと・聞くこと(1)オ	オ 互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐこと。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、身近な語句の意味を確かめ、話や文章で使う。思考・判断・表現では、挨拶や頼み事の場面を選び、相手の返事を受けて言葉を交わす。交流や試行の前後を比べ、場面と言い方のカードを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近な語句の意味を確かめ、話や文章で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「話すこと・聞くこと」において、挨拶や頼み事の場面を選び、相手の返事を受けて言葉を交わすという学習に取り組んでいる。（A(1)オ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○挨拶や頼み事の場面を選び、相手の返事を受けて言葉を交わす。 ○同じ頼み事でも相手に伝わる言い方はどれかを考え、最初の答えとその理由を残す。	知①・思①（発言・学習記録）
第2次	2	○友達の説明と比べ、場面と言い方のカードを見直す。 ○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。	思①・態①（見直しの記録）

本時の案

本時の目標：挨拶や頼み事の場面を選び、相手の返事を受けて言葉を交わすことができる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「同じ頼み事でも相手に伝わる言い方はどれか」 【めあて】場面や相手に合う言葉について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・返事を聞くとその後に言うことが変わる。 ・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。自分の言葉を言ったら相手の返事を聞かない姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 挨拶や頼み事の場面を選び、相手の返事を受けて言葉を交わす。 3 話し手と聞き手を交代し、相手が伝えた内容を確認して質問や応答を返す。 4 「同じ頼み事でも相手に伝わる言い方はどれか」を観点に、伝わった内容と伝わりにくかった点を確認、もう一度話したり聞いたりする。 〈予想される児童の反応〉 ・返事を聞くとその後に言うことが変わる。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	学校生活の場面を絵で示し、話す役と応じる役を交代する。知識・技能では、身近な語句の意味を確認、話や文章で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①挨拶や頼み事の場面を選び、相手の返事を受けて言葉を交わすという学習に取り組んでいる。(A(1)オ)(発言・聞き手の応答・聞き取りや話し方の記録)
まとめ (分)	5 場面と言い方のカードを確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】伝えたいことを選び、相手の応答を確認すると、話す内容や言い方を見直せる。 6 最初から変えた点、理由を確認して残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。同じ頼み事でも相手に伝わる言い方はどれかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（場面と言い方のカードと実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には場面や相手に合う言葉を確認する語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に場面と言い方のカードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後を使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、自分の言葉を言ったら相手の返事を聞かないことである。学校生活の場面を絵で示し、話す役と応じる役を交代する。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

場面と言い方のカード

「同じ頼み事でも相手に伝わる言い方はどれか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。学校生活の場面を絵で示し、話す役と応じる役を交代するための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）（https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_1_202503.docx）／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口（<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>）／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編（https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf）／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重